

16 April, 2010

## 第2講 人はどのような形で過去を記憶し、記録していくのか

10 分間レポート：人はどのような形で過去を記憶し、記録していくのか

写真・ビデオ（映像化された過去の記憶）

記憶の断片

日記・手紙（記憶の断片）

主観的世界

小説・ドラマ（エピソード化された過去の記憶の創作）

過去の記憶を背景にエピソード中心に創作

藤沢周平『風の果て』（1983-84年）

『週刊朝日』連載

故郷の庄内藩が舞台

上士と下士の問題

ウンベルト＝エーコ『薔薇の名前 *Il Name della Rosa*』1980年

1327年教皇ヨハネス22世の時代

北イタリアのとあるカトリックの修道院が舞台

パスカヴィルのウィリアム（フランチェスコ会士）

メルクのアドソ（ベネディクト会士）

失われたアリストテレス『詩学』第2部喜劇に関する部分

背景に普遍論争

異端のドルチーノ派や異端審問

昔話（回想される過去の記憶）

主観的・真偽の曖昧さ

世代から世代に語り継がれていく過程に生じる変質、改竄、付加、

削除、創作

真偽の逆転

幕末の高取藩の例

大正末頃の古老の話：佐幕・京から有栖川宮率いる討伐を受

ける・農民の協力・竹の皮滑りの戦術で撃退

実際には尊王派

なぜ佐幕という逆転した話になったのか

1. 明治に対する失望

子爵・近代化から取り残される

2. 天誅組による高取城への攻撃を撃退したこと（1862年）の記憶

中山忠光が天誅組本隊を指揮

1と2が混同して古老の話となった